

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	茨城大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	イバラキダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップA
	学部・研究科等名	人文学部
	担当教職員名・役職	井澤耕一教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	28
基本情報	受入企業等数	16
	受入企業等名	(株)アクティオ、(株)主婦の友社、テレビ朝日映像(株)、(株)アマゾンラテルナ、(株)いばじん、(公財)水戸市国際交流協会、つくば市役所、日立市役所、水戸市役所、土浦市役所、那珂市役所、近畿日本ツーリスト(株)、石岡市役所、厚生省水戸市公共職業安定所、(株)やんかわ商店、国際協力機構(JICA筑波)
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ、4.他県をまたぐ広域インターンシップ、5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業の就業時間中に指導・監督者の指導のもと、当該企業で行われている業務を参加学生が実際に行っている。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	当該インターンシップが、2年生以上の学生を対象に、2単位を付与するものとし、シラバスにおいて実施目的や教育的効果を明確にしている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている、3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ参加のガイダンスを開催し、2時間かけて、インターンシップとはなにかという基本や、インターンシップ先の選択などを学生に教授している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	日誌を用いて、現場での体験の振り返りを行ない、担当教員や指導者がそれにコメントしている。また報告会をいわゆるゼミ形式の少人数で行い、その成果を「報告書」を刊行することで明確化している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	特にマスコミなどの民間企業については、担当教員が訪問し、インターンシップの実施状況を確認している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている、2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている、3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	アンケートを中心に、学生に調査を行い その結果を公開し、また担当教員がその分析をおこなって、それも公開している。
要素	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している、3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間～10日間

素 ⑤	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間13日間(うちインターンシップ実施期間10日間)
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	連続した5日間以上の実施期間を確保する事を基本とし、受入企業と調整の上でして実施している。
要素 ⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップガイダンスにおいて、インターンシップを受け入れている企業や人材派遣企業にも参加してもらい、空理空論ではない実際の社会状況を説明してもらっている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問 い 合 わ せ 先	大学等名	茨城大学
	担当部署名	キャリアセンター(学務部キャリア支援課)
	担当者役職名	専門員
	担当者氏名	塚田和男
	電話番号	029-228-8829
	メールアドレス	career@ml.ibaraki.ac.jp